

## カンボジア 2008 年人口センサスの調査票について

～ カンボジア政府統計向上計画（国際協力プロジェクト）～

総務省統計局  
金室 貴子（かなむろ たかこ）

### 1 はじめに

カンボジアでは 2008 年 3 月 3 日午前零時を調査期日として人口センサスが実施された。国際協力機構（JICA）や国連人口基金（UNFPA）などがドナーとなり、10 年ぶり 3 回目、カンボジア内戦終結後としては 2 回目の実施であった。

JICA は技術協力プロジェクトとして「カンボジア政府統計能力向上計画」を立ち上げ、カンボジア 2008 年人口センサスを全面的に支援している。総務省統計局は、国際協力の一環として、総務省統計研修所及び独立行政法人統計センターと協力して、職員を専門家として、本プロジェクトに派遣し、カンボジア計画省統計局（National Institute of Statistics (NIS), Ministry of Planning, Cambodia）に対する技術協力を組織的に実施している。筆者も本プロジェクトにおける JICA 専門家として派遣された職員の一人名である。

ここでは、人口センサスの調査票そのものは、紙面の都合で紹介できないが、以下の総務省統計局のサイトで参照可能である。

<http://www.stat.go.jp/info/meetings/cambodia/documen2.htm>

なお、本稿の記述内容は、筆者の個人的な見解に基づくものであり、総務省統計局の見解ではないことをお断りしておく。



写真 1 我が国の援助により建設されたカンボジア計画省統計局新庁舎

## 2 人口センサスの概要

カンボジアの人口センサスは、他の多くの発展途上国と同様、現在地（de facto）主義を採用し、インタビュー方式（他計方式）で行われている。これは日本を含む先進国では、常住地（de jure）主義で調査しているのと対比的である。

今回の調査日は、前回同様 3 月 3 日であったが、この時期を調査日とした理由は、3 月は農閑期に当たるので、農業就業者が約 6 割(2005 年)<sup>1)</sup>のカンボジアでは、住民の在宅率が高くなることが挙げられる。また同時に、3 月は乾季でもあるので、道路事情が比較的良くなることが挙げられる。ちなみに、カンボジアでは、舗装されていない道路が多いため、雨季には道がぬかるんで移動しにくくなる。しかし、3 月は乾期で移動しやすいとはいえ、日中は 30 度を優に越える酷暑期でもあり、調査員の苦勞が偲ばれる。

調査期間も、前回同様 2 週間であった。調査員は事前に配布された調査区地図を基に、2 月 29 日～3 月 2 日の間に世帯名簿を作成し、3 月 3 日～13 日の間に全ての世帯に対する実査を行う。また、その間、調査区地図の誤りや調査区内の変化等が見つかった場合は、その更新も併せて行う。

調査票は 2 種類あり、世帯名簿作成用の調査票を Form A といい、一方、実査で使用する調査票を Form B という。

1) 出典：Table 4.30, Cambodian Statistical Yearbook 2006



写真 2 人口センサス実査の様子（Stung Treng 州にて）

### 3 FormA (世帯名簿)

FormAは1ページで、世帯(ホームレスや住所不定者を除く)ごとに記入し、10世帯まで記入可能である。調査事項は以下のとおりである。

#### 【調査事項】

- ・世帯主の氏名
- ・世帯主の男女の別
- ・常住する世帯員数(総数、男、女)
- ・建物の材質(壁、屋根、床)
- ・建物の用途

#### 【地域コード等】

- ・行政区域の名称及びコード(州、郡、コミューン、村)
- ・調査区番号
- ・建物番号
- ・世帯番号

「建物の用途」は、回答選択肢が、「住居」、「住居・商店」、「住居・作業場」及び「住居・その他の事業所」の4つに分かれており、今後の事業所リスティング(2008年予定)や経済センサス(2011年予定)の実査時の補助資料として利用可能である。

### 4 FormB (調査票)

FormBは、6ページからなっており、世帯ごとに記入し、10名まで記入可能である。調査事項は、ミレニアム開発目標(MDGs)に関するものが多く含まれており、全部で81項目あり、大別して以下の5つの部分で構成されている。

- (1) 人口に関する調査事項
- (2) 個人に関する調査事項
- (3) 出産力に関する調査事項
- (4) 住宅の状況及び設備に関する調査事項
- (5) 死亡に関する調査事項

#### (1) 人口に関する調査事項

調査事項は以下のとおりである。

#### 【調査事項】

- ・世帯の種類
- ・3月3日午前零時に居た常住者(氏名、世帯主との続き柄、男女の別)
- ・3月3日午前零時に居た訪問者  
(氏名、世帯主との続き柄、男女の別、国内の常住地・外国)
- ・3月3日午前零時に居なかった常住者  
(氏名、世帯主との続き柄、男女の別、年齢、国内の所在地・外国、不在期間)

#### 【地域コード等】

- ・行政区域の名称及びコード(州、郡、コミューン、村)
- ・調査区番号
- ・建物番号
- ・世帯番号
- ・世帯主の氏名

このように、現在地主義と常住地主義の両方に基づく人口を把握できるように設計されている。また、「世帯の種類」は、回答選択肢が、「一般世帯」、「施設等の世帯」、「ホームレス世帯」、「ポートピブル世帯」及び「遊牧民等」の5つに分かれており、ホームレスや住所不定者の人口を把握できるように設計されている。

## (2) 個人に関する調査事項

これ以降は、現在地主義に基づいて調査される。調査事項は以下のとおりである。

### 【調査事項】

- ・氏名
- ・世帯主との続き柄
- ・男女の別
- ・満年齢
- ・配偶関係
- ・母語
- ・宗教
- ・出生地
- ・前住地～現在居住している村以外の地
- ・居住期間～現在の村に居住している期間
- ・転居した理由～転居した者のみ回答する
- ・識字（クメール語の読み書きが可能か否か、読み書きが可能な言語）
- ・フルタイム教育（通学したことがあるか否か、最終学歴）
- ・身体障害（先天性障害、後天性障害）
- ・労働力状態～昨年1年間の通常の状態

以下は、就業者のみ回答する。

- ・雇用期間～最近12か月間に雇用されていたすべての期間
- ・職業～昨年1年間の通常の仕事
- ・従業上の地位～昨年1年間の通常の仕事上の地位
- ・産業～昨年1年間の通常の仕事
- ・雇用主の区分（政府部門か民間部門か等）～昨年1年間の通常の仕事主の区分
- ・副業～昨年1年間の主な副業の経済活動

以下は、就業者及び通学者のみ回答する。

- ・従業地又は通学地～昨年1年間の通常の仕事地又は通学地

「世帯主との続き柄」の回答選択肢は7つである。一方、我が国の「世帯主の続き柄」の回答選択肢は12種類ある。したがって、我が国ほどの詳細な世帯の家族類型はできないことになる。また、人口の把握方法が現在地主義であるため、通常の家構成の詳細な情報が得られないという側面がある。

「配偶関係」の回答選択肢は「未婚」、「配偶者あり」、「死別」、「離別」及び「別居」の5つとなっており、「別居」が含まれているところが、我が国との違いである。これは、カンボジアでは別居が少なくない<sup>2)</sup>ことを暗に示しているといえよう。

2) 45,088人（2004年）、出典：Table 3.7, Cambodian Statistical Yearbook 2006

「母語」の回答選択肢は 29 種類ある。これは、いうまでもなく、カンボジアという国が、クメール人のみの単純な構成の国家ではなく、実は複雑な多民族国家であることを示している。また、人口センサスの実施に当たって、インタビュー方式の調査方法においては、意思疎通という意味で困難な面があることを示している。一方、この「母語」を調査することにより、外国人を概ね把握することができる。ちなみに、カンボジアでは、国籍を尋ねると、外国人は差別されるかもしれない等の理由により、ほとんどの人が「自分はカンボジア人である」と回答する傾向があるため、国籍は調査事項に加えられなかったという事情がある。

人口移動に関する調査事項である「出生地」及び「前住地」は、「出生地」からは長期的な移動を、一方、「前住地」からは短期的な移動を把握することができる。また、「転居した理由」は、回答選択肢が 12 種類あり、「就職」、「就学」、「結婚」のような一般的なもののみならず、「住居を奪われた」、「危険」、「本国帰還」、「孤児」などが含まれており、カンボジア内戦という近代史を彷彿とさせる内容になっている。

「識字」については、15～24 歳の識字率等が MDGs の指標となっている。

「身体障害」は、「先天性障害」と「後天性障害」に分かれており、「後天性障害」が調査されているところに、内戦が遠い過去のものではないことがわかる。また、回答選択肢には「精神障害」が含まれており、これについては、カンボジアでは、未だプライバシーが大きな問題になっていないことがわかる。

「労働力状態」は、昨年 1 年間の通常の状態を調査しており、我が国の Actual (Current) 方式とは異なり、Usual 方式を採用していることがわかる。この Usual 方式は、我が国では就業構造基本調査が採用している。

なお、15～24 歳の男女別及び全体の失業率が MDGs の指標となっている。

「副業」については、カンボジアでは副業を持っているのが当たり前である。公務員である NIS の職員でさえ、副業を持つのが当たり前で、大学で講師をしている職員は、公務員の給与よりも講師謝金の方が高かったという話を聞いたことがある。そのため、カンボジアの労働者は、本業よりも副業の方に重点を置くことさえある。

「従業地又は通学地」は、我が国からの提案に基づいて新設された調査事項である。これにより、目覚ましい経済成長を遂げているプノンペンを始めとした大都市における昼間人口や、それらの大都市の流入・流出人口を新たに集計することができる。

### (3) 出産力に関する調査事項

調査事項は以下のとおりである。

#### 【調査事項】

- ・ 15 歳以上の女性の氏名
  - ・ 出産した子どもの数 (男の子、女の子) ただし、死産は除く。
    - ・ うち現在生存している子どもの数 (男の子、女の子)
    - ・ うち死亡した子どもの数 (男の子、女の子)
- ・ 15 歳～49 歳の女性で最近 12 か月間に出産した子どもの数 (男の子、女の子) ただし、死産は除く。
  - ・ 出産時に医師等の介助者があったか

これらの調査事項は、普通出生率や合計特殊出生率などの出生力指標を算出することを主な目的としている。出生児数は、我が国の国勢調査においても以前は調査されていたが、プライバシー意識の高まりから、昭和 45 年を最後に調査されなくなった。

また、「出産時の介助者」については、医師・助産婦の立ち会いによる出産の割合が MDGs の指標の 1 つとなっている。

#### ( 4 ) 住宅の状況及び設備に関する調査事項

調査事項は以下のとおりである。

##### 【調査事項】

- ・住宅の所有区分
- ・主な光源
- ・主な調理用燃料
- ・トイレの設備（住宅内）
- ・飲料水の主な供給源
- ・飲料水の供給源の場所
- ・居室数
- ・世帯が所有する設備の個数（ラジオ、テレビ、固定電話、携帯電話、パソコン、自転車、オートバイ、自動車、ボート、大型トラクター、小型トラクター）
- ・インターネットへのアクセス（自宅、自宅外）

「飲料水の主な供給源」については、浄化された水源を継続して利用できる人口の割合（都市部及び農村部）が、MDGs の指標の 1 つとなっている。

「飲料水の供給源の場所」は、回答選択肢 3 つの中に、「Away」が含まれており、水源の場所が住居から離れている場合が少なくないことを暗に示している。

「世帯が所有する設備の個数」については、人口 100 人当たりの電話回線、携帯電話加入者数及び使用パソコン台数が、MDGs の指標となっている。

「インターネットへのアクセス」については、人口 100 人当たりのインターネット利用者数が、MDGs の指標の 1 つとなっている。

#### ( 5 ) 死亡に関する調査事項

調査事項は以下のとおりである。

##### 【調査事項】

- ・最近 12 か月間の死亡者数
- ・死亡者の氏名
- ・死亡者の男女の別
- ・死亡者の世帯主との続き柄
- ・死亡時の満年齢
- ・死因
- ・15 歳～49 歳の女性で妊娠中、出産時又は出産後 42 日以内に死亡したか
  - ・死亡した場所
  - ・死亡に立ち会った人

これらの調査事項は、普通死亡率や乳児・新生児死亡率を始めとする死亡に関する指標を算出することを主な目的としている。

「死亡時の満年齢」については、乳児死亡率や5歳未満の死亡率がMDGsの指標となっている。

「死因」の回答選択肢のうち、「地雷」が含まれているのは、いかにもカンボジアらしいといえる。また、「マラリア」及び「結核」による死亡率がMDGsの指標となっている。

「15歳～49歳の女性で妊娠中、出産時又は出産後42日以内に死亡したか」については、妊産婦死亡率が、MDGsの指標の1つとなっている。

## 5 おわりに

ここまで、今回の人口センサスの調査票を紹介したが、次回に向けて検討が必要と思われる事項があるので、以下に、まとめておきたい。

### (1) 人口センサス実施経費におけるカンボジア王国政府の負担分について

今回の人口センサス実施経費のうち、カンボジア王国政府の負担分は約1割である。前回1998年人口センサス時の負担ゼロから考えれば大きな前進ではあるが、いつまでも海外からの援助をあてにすべきではない。カンボジアにおける経済成長に伴う物価上昇を考慮すると、次回の人口センサス実施経費は、かなり増大するであろう。そのためには、カンボジア人に係る人件費は、カンボジア王国政府が総べて負担するなどの自助努力を促す必要がある。

### (2) 人口把握の方法について

今回の人口センサスでは、前述のとおり、人口把握の方法として現地主義が採用された。現地主義では、調査時点における各人の居場所で調査するため、世帯の観点から見ると、必ずしも通常の世帯構成が把握されないという問題点がある。カンボジア王国政府が、今後、先進国の仲間入りを目指すのであれば、通常の世帯構成の統計は、国家の政策上、最も基本的な統計であることから、次回以降は、常住地主義を採用すべきであろう。

### (3) プライバシーに関わる調査事項について

今回の人口センサス調査票には、出産や死因に関する事項など、プライバシーに大きく関わる調査事項が含まれていた。今後は、カンボジアにおいてもプライバシー意識が高揚してくることが予想されるので、個人のプライバシーに配慮した調査のあり方の検討が必要となるであろう。

今回の人口センサスは、本年3月に実査が終了したとはいえ、まだ集計や結果の公表などの大きな作業が残っている。筆者は、結果が予定どおり公表され、カンボジアの正確な姿が判明することを、今から心待ちにしている。